
紫陽花

Ram F

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紫陽花

【Nコード】

N0747G

【作者名】

R a m F

【あらすじ】

紫陽花が咲いているのを知っているのは、僕しか知らないんだ。

湿った暖かな風が吹いていた。

その風は僕の背中をトントンと押して、足が自然に帰路へと向かわせる。

その道に、紫陽花は咲いていた。それは僕しか知らない不思議な道。

紫陽花は、今という時間を濃密に、純粹に楽しんだという……。

初夏の長い雨に撃たれる様を傘をさす僕はみた。

夏の暑さに干される様を僕はみた。

そして、いつしか紫陽花は僕に云った。

「ワタシは生きた」

一緒に生まれた友達は先に行き、ワタシだけがのこったと……。しかし、ワタシは寂しくはなかったと……。

紫陽花はコクンと顔を落としてさらに云う。

すでにワタシの子が生まれる準備が死と同時に完了することがわかった。

ワタシは、今、葉に水滴をのせている。その水は神様に捧げるワタシの結晶になるんだと……。

そして、ワタシの命がもうないならば、せめてこの子だけは守りたいと……。結晶はゆつくりと、時間をかけて葉から落ちてゆく。

ワタシはこの世界に精一杯叫んだ。

「もし、生まれ変われる権利がワタシにあるとしてもワタシはワタシでいたい。この子もそんな風に生きてほしい。幸せな時を過ごしてほしい。いろいろなほしいをいいたい」

「でも……、これだけはまだ見ぬ我が子に伝えたい」

「ごめんなさい。先に逝ってしまうお母さんを許してね」

結晶は地面に落ちた。

それはまるで涙のように落ちた…………。

僕に同情を抱かせて…………。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0747g/>

紫陽花

2010年11月2日09時51分発行